

6日 日曜

創世記

43:25 兄弟たちは、ヨセフが屋に帰って来るまでに、贈り物を用意しておいた。自分たちがそこで食事をするようになっていてと聞いたからである。

43:26 ヨセフが家に帰って来たとき、彼らはその家まで携えて来た贈り物を彼に差し出し、地に伏して彼を拝した。

43:27 ヨセフは彼らの安否を尋ねた。「以前に話していた、おまえたちの年老いた父親は元気か。まだ生きているのか。」

43:28 彼らは答えた。「あなた様のしもべ、私たちの父は元気で、まだ生きております。」そして、彼らはひざまずいて彼を拝した。

43:29 ヨセフは目を上げ、同じ母の子である弟のベニヤミンを見て言った。「これが、おまえたちが前に話した末の弟か。」そして言った。「わが子よ、神がおまえを恵まれるように。」

43:30 ヨセフは弟なつかしさに、胸が熱くなって泣きたくなり、急いで奥の部屋に入って、そこで泣いた。

43:31 やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、「食事を出せ」と命じた。

43:32 それで、ヨセフにはヨセフ用に、彼らには彼ら用に、ヨセフとともに食事をするエジプト人にはその人たち用に、それぞれ別々に食事が出された。エジプト人は、ヘブル人とはともに食事ができなかったからである。それは、エジプト人が思ひ嫌うことであった。

43:33 彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚き合った。



43:34 また、ヨセフの食卓から彼らの分が与えられたが、ベニヤミンの分は、ほかの者より五倍も多かった。彼らはヨセフとともに酒を飲み、酔い心地になった。

かつてヨセフは畑の束や太陽系の夢を見て、兄たちは自分にひれ伏すようになることを連想しました。そして今やその夢の通りになりました。まさにヨセフは神の人で神に用いられたわけではありません。しかしヨセフであっても、主のわざに参与したからということで、自分を正当化することはできません。人はもともと多くの夢を見るものです。自分が喜ぶような夢を見たときに、周囲の気持ちも考えずに得意げに話すということは、自己中心的で配慮が足りないことです。

また用いられるということであれば、兄弟たちもヨセフを売ったことにより、彼は大臣になってヤコブ一族の助けになったのですから、「自分たちは神に協力した」と言えないこともありませんが、それは見当違いです。主は人間の愚かさや失敗や間違いさえもお用いになるのですから、結果だけを見て、自分は用いられたとは言えないのです。それは自分の問題や罪を覆い隠してしまう詭弁なのです。私たちは自分自身の感情と動機を、神のみことばに照らしてみる必要があります。

ヨセフも兄弟たちも、食べて飲み、良い気分になったようです。そこには、誰が正しくて被害者であるかというような、被害者意識がヨセフからなくなっていることがわかります。そのような思いが兄たちにも、雰囲気として伝わったのでしょうか。彼らもまた安心して酔いごちになりました。神様から与えられた和解の思いは、契約のような言葉を取り交わさずとも、愛の雰囲気 で伝わる部分も大きいのです。私たちはそれが聖霊の働きであることを知っています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

